NFC所蔵作品選集

MoMAK FILMS 2016 09 11 Sep. Nov.

information

上映時間｜各回14:00–18:00頃(開場は13:30)

*7月15日[金]のみ18:00–上映

上映作品は予告なく変更する場合があります。
上映作品, 各回のスケジュールについては京都国立近代美術館HPにてご確認ください。
www.momak.go.jp/films/

料金｜1プログラム520円(当日券のみ)

*当日に限り, 本券でコレクション展もご覧いただけます。

会場｜京都国立近代美術館 1階講堂

先着100席

入場券は会場入口にて販売します。
当日13:30(7月15日のみ17:30)より当日分のすべての作品の整理番号つき入場券を販売, 開場します。各回入替制です。2回目は上映開始の10分前に開場します。会場内での飲食はご遠慮ください。

主催｜京都国立近代美術館(MoMAK)
東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

企画協力｜北小路隆志(映画評論家 / 京都造形芸術大学准教授)
板倉史明(神戸大学大学院准教授)

Exhibition

同時開催中の展覧会

あの時みんな熱かった!
アンフォルメルと日本の美術

会期｜2016年7月29日[金]—9月11日[日]

メアリー・カサット展

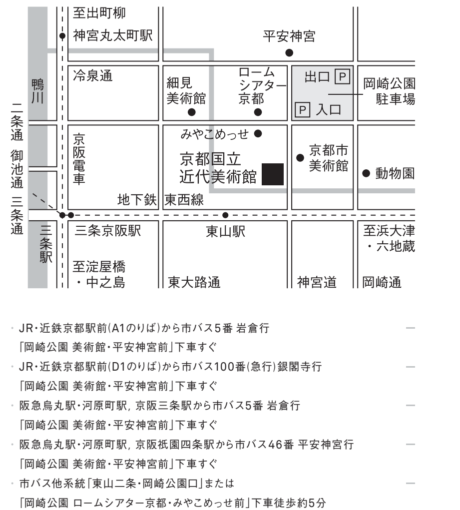
会期｜2016年9月27日[火]—12月4日[日]

女ばかりの夜

access

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL｜075 761 4111
www.momak.go.jp



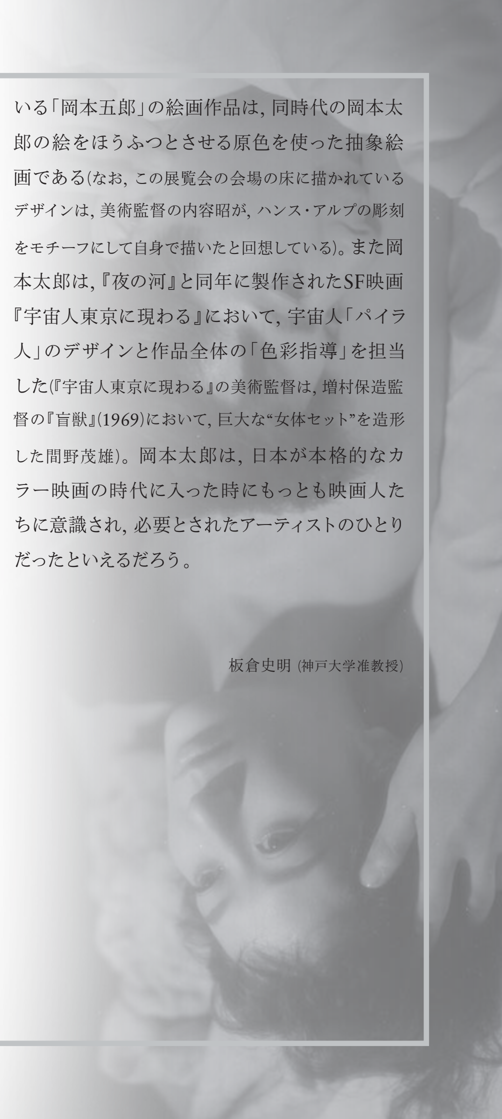
- JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行)銀閣寺行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅, 京阪三条駅から市バス5番 岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅, 京阪祇園四条駅から市バス46番 平安神宮行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 市バス他系統「東山二条・岡崎公園口」または「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分
- 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

MoMAK F Column

010 映画美術と色彩

一般的に, 新しい技術が映画界に導入された初期には, 新しい技術の特徴を最大限に活用する映画作品が数多く生み出されるものである。映画史を振り返ると, トーキー映画の初期には音の要素にこだわった演出が数多く見られたし, 3D映画が導入された初期には, スクリーンから物体が飛び出してくるアクションを強調した演出が頻出した。そして, カラーフィルムが導入された初期にもまた, 色彩を前景化して場面の印象や登場人物の感情を暗喩的に表現する演出(ミザンセン)が世界中で実践された。

今回の上映プログラムには, 日本における初期のカラーフィルム作品が複数含まれている。日本映画ではじめてカラーフィルムが本格的に長篇劇映画に使用されたのは, 1951年に封切られた『カルメン故郷に帰る』(木下惠介監督)である。ただし, 実際に多くの日本映画がカラーフィルムで製作されはじめたのは, ようやく1956年から1957年にかけてであった。映画作品におけるセット・小道具・衣装・メイクアップなどの美的な要素を取りまとめるプロダクション・デザイナー(日本では「美術監督」と呼ばれてきた)にとって, 白黒フィルムからカラーフィルムへの技術的な変化は, 映像表現上の大きな意識変革をうながす出来事であった。はじめてカラーフィルムを使って演出をおこなった日本の監督たちは, 美術監督やカメラマンと撮影現場で格闘しながら, 色彩にこだわった作品を生み出した。吉村公三郎監督の『夜の河』(1956)もその一本であり, 「色弱」であることを自覚していた吉村は, 色彩心理学を学んだうえで, 色彩を演出の一要素として意図的に盛り込んだ。その結果, 本作は, セット・衣装・小道具といったプロダクション・デザインの諸要素が, 映画作品の演出のなかで本質的な役割をになっており, 同時代のハリウッドで活躍したヴィンセント・ミネリやダグラス・サークの作品と同様, メロドラマ的な“過剰さ”が色彩となってあふれだす作品として映画史に記憶される(ちなみに1957年に封切られた五所平之助監督の初カラー作品『黄色いからす』も, 児童の色彩心理の知識を応用した興味深い作品である)。

『夜の河』の主人公のふたりは, 共に何かを“染める”仕事に従事しており, 人物設定のレベルでも色にこだわりをみせている(女性は染色作家, 男性はハエを着色して遺伝の実験をする研究者)。なお『夜の河』には, 女性主人公を慕う大学生で, 画家の「岡本五郎」という人物が登場する。これは明らかに実在の画家・岡本太郎をイメージしたキャラクターであり, 実際, 映画中の展覧会で飾られている「岡本五郎」の絵画作品は, 同時代の岡本太郎の絵をほうふつとさせる原色を使った抽象絵画である(なお, この展覧会の会場の床に描かれているデザインは, 美術監督の内容昭が, ハンス・アルプの彫刻をモチーフにして自身で描いたと回想している)。また岡本太郎は, 『夜の河』と同年に製作されたSF映画『宇宙人東京に現わる』において, 宇宙人「パイラ人」のデザインと作品全体の「色彩指導」を担当した(『宇宙人東京に現わる』の美術監督は, 増村保造監督の『盲獣』(1969)において, 巨大な“女体セット”を造形した間野茂雄)。岡本太郎は, 日本が本格的なカラー映画の時代に入った時にもっとも映画人たちに意識され, 必要とされたアーティストのひとりだったといえるだろう。

板倉史明(神戸大学准教授)